



本館全景

セミナーハウスニュース No.189 主な内容

巻頭言	1
法人ニュース・開館50周年記念事業の進捗状況	2
ホームページがリニューアルされました	3
セミナー実施報告	4・5・6
利用状況	6
千人会通信	7
平成27年度運営幹事会報告・館長室から	8

巻頭言

私にとってのセミナー、 大学セミナーハウス

明星大学学長 大橋 有弘



大学セミナーハウスは静かな環境の中で人格的接触をはかりながら人生経験を持つことを目的として設立されている宿泊施設付きセミナー施設であり、地面に三角形の楔を打ち込んだような一種、異様なデザインの本館は、ここで学んだ人

にとって忘れがたい、印象深いものであると思います。特に、合宿形式でのセミナーは通常の教室でのゼミとは異なる環境で、OFFにおける教員と学生、学生間の密で多様な交流は、学習者にとって得がたい経験になるはずす。

大分前のことになりますが、大学進学を考え始めたころ、担任から大学にはセミナーという学習形式があるということを知り、セミナーという言葉は大学における学習を象徴するものであり、何か神秘的な響きを持った、憧れ、期待に満ちたものになりました。しかし、入学した当時の大学は残念ながら静かに学習する状況にはなく、アカデミズムとは程遠いものでした。30年後、縁あって明星大学でゼミ担となり、改めてセミナーにたどり着いたという感慨がありました。

いうまでもなく、セミナーは教員の指導のもとに、少人数の学生が特定のテーマについて研究し、報告・討論するものです。そこには、双方向性・相互啓発性の高い状況での学びがあります。

明星大学では、「自立と体験」という特色ある科目があります。これは、全学科横断的なクラス編成で、少人数によって、ディスカッション、

まとめ、発表というまさにセミナー形式でおこなうものです。学部・学科を超えた交流、自己理解、卒業後の自分、学生生活のデザイン等がテーマとなっています。

大学セミナーハウスでの研修は、他大学学生との交流も可能であることから、この「自立と体験」の授業の一部でも大学セミナーハウスで1泊研修ができればよいと思いますが、2,000人、70クラスという規模ですので現時点では無理のようです。

大学セミナーハウスでのセミナーは学生だけではなく、国・公・私立大学の新任教員が大学の壁を越えて学び合い、交流する新任教員研修セミナーやこれからの大学を担う若手・中堅、また熱意ある職員を対象とした特色ある大学職員セミナーがあります。前者は、学生の意欲を高め、能動的な学びを通して自ら課題を発見して解決する力を培うことは、大学教員に課せられた最も重要なテーマであり、国公立大学の枠を越えた合宿形式の相互研修により、新たな時代にふさわしい大学教育のあり方を探るものとされています。後者も、「大学改革を牽引する職員」を対象としたセミナーです。

多くの大学が集結している多摩地域で、様々なクワイアメント、対象者に対し、セミナー形式を中心とした学習環境を提供している大学セミナーハウスの果たしている役割は、今後益々高くなるものと考えます。

大橋 有弘 (おおはし ともひろ) プロフィール

(1944年東京生まれ)

略歴

東京大学教育学部卒業後、総務省勤務を経て1992年明星大学教授に就任。人文学部長、教育学部長、副学長を経て、2014年4月学長に就任。

第18回理事会報告（平成27年度第3回）

- 開館50周年記念事業の資金計画：大規模修繕のための借入
- 平成28年度から会費基準を変更：学部数から収容定員への変更
- 平成28年度事業計画骨子：開館50周年記念の集い開催は平成28年11月12日に決定

第18回（平成27年度第3回）理事会が、平成27年11月24日（火）17時00分～19時10分の間、桜美林大学四谷キャンパス（千駄ヶ谷）において、出席理事7名（理事総数11名）、出席監事1名の参加のもと開催され、全議案滞りなく承認された。

①開館50周年記念事業として借入金による大規模修繕について

セミナーハウスの宿泊・研修施設としての水準を維持・向上させ収益に繋げることを目的として、収益に直結する宿泊・研修施設の大規模修繕工事を50周年記念事業として平成28年度借入金により実施することについて提案があり、承認された。

②平成28年度から会費基準を変更について

現行の学部数での基準が大学規模の実態を表していないので、学部収容定員を基準とすること、会費額に上限を設け、会員の負担軽減を図るとともに会員間格差を是正することとする新たな会費基準の提案があり、関連規定の改正が承認された。

③平成28年度事業計画骨子について

開館50周年事業の目玉である食堂棟の建設スケジュールが明確化し、来年3月中には着工できる見通しが立ったので平成28年11月12日（土）に食堂棟竣工及び開館50周年記念の集いを開催する旨の報告があった。

また、宿泊利用者拡大施策を展開するにあたって年間33,000人以上を目標とすることとし、セミナー事業についてもSPAの年間目標を350人（宿泊）、教員免許更新講習eラーニングの年間受講者数の目標を200人と明確な目標を設定した。

平成28年度事業計画骨子については全項目承認され、具体的な計画内容については平成28年度事業計画策定の段階で検討し、次回（3月開催予定）理事会に諮ることとした。

開館50周年記念事業の進捗状況

開館50周年記念事業である①食堂棟の建設、②既存施設の一部リニューアル、③その他関連事業、④募金活動についての進捗状況を報告します。

①食堂棟の建設について

当初、平成27年6月建築確認申請、12月着工、平成28年9月竣工を予定していましたが、大学セミナーハウス敷地境界線不確定のために境界線確定の手続きを行っていた関係で予定が遅れることになりました。しかし、10月6日に都市計画法43条（市街化調整区域における建築許可）が決裁になり10月9日から近隣住民約40世帯（小中学校含む）への食堂棟建設に関する説明に訪問し、10月21日には大学セミナーハウス交友館Bにて下郷町会住民9名に対して説明会の運びとなりました。今後につきましては、平成28年2月中旬建築確認申請、3月下旬工事着工、平成28年9月下旬工事竣工、10月厨房工事完成を予定しています。現在食事のある食堂が本館4階に配置されておりますが、設備の老朽化、客席スペースの不足、車椅子での利用が不可能などの問題をかかえており、外部から円滑にアプローチでき、だれでもゆったりと利用できる食事の場を創設することが今後を見据えた利用計画やサービスの観点から必要と考えたのが今回建築する「食堂棟」です。地上1階、地下1階、約200名を賄えられる木造平屋建て約570㎡の「食堂棟」もいよいよ来年3月より工事開始予定です。

②既存施設のリニューアルについて

平成27年度既存施設計画に基づき長期館B（女子学生にとって快適な入浴ができるように計画した、女性専用の風呂の改修とパウダールームの設置、爆裂補修）の工事を平成27年10月25日から11月12日に行いました。資金は多摩信用金庫より調達いたします。

平成28年度は、長期館改装（屋根・外壁塗装・内外装）、講堂・図書館・国際館（屋根防水）、留学生会館（外壁塗装）も検討したいと存じます。

③その他関連事業

50周年記念事業としては、このほかに記念式典、記念誌の刊行、関連イベント等についても検討しております。

④募金活動について

寄附金については、鋭意努力しており、現在1,238万円を超えたところですが、来年3月まで集めるべく努力いたしますので、さらなるご協力をお願いいたします。

開館50周年記念事業寄附金寄附者ご芳名

大学セミナーハウス開館50周年記念事業募金へのご支援を賜りました皆様へ心より御礼申し上げます。

今号は2015年4月1日から9月30日までのご寄附を対象に、ご芳名を50音順（敬称略）にご紹介いたします。なお、ご芳名の公表を希望されない方につきましては掲載いたしておりません。今後ともご支援、ご協力を賜りますよう、くれぐれも宜しくお願い申し上げます。

○寄附者ご芳名（企業・団体）

大成交通（株）

○寄附者ご芳名（個人）

小川 健 / 松山 正男

募金状況 2015年9月30日現在

区分	件数	寄附金額（円）
個人	124	3,262,000
学校法人	12	6,150,000
企業・団体	19	2,970,000
合計	155	12,382,000



ホームページがリニューアルされました

「公益財団法人大学セミナーハウス」全体のブランド価値向上に資するべくホームページを大幅にリニューアルしました。

大学セミナーハウスをより良く知って頂くために、写真を多用し、FAQも充実し、パワーアップしました。また、全ページスマートフォンに最適化して表示されますので、パソコン、タブレット、スマートフォンなど様々な環境でウェブサイトを開覧することが可能です。

▼PCのトップページ



新たなホームページの大きな特徴は二つ、CMS利用とスマートフォン最適化

- ①CMS(Content Management System)を利用して担当者が直接関係ページを編集し、コンテンツ作成することができます。
- ②全ページが自動的にスマートフォンに最適化して表示されます。

ホームページを基盤にした企画立案と広報展開で活性化を図ります

ホームページは、これで完成された訳ではありませんが、セミナーハウスを支えるステークホルダーや利用者の方々とのより良いコミュニケーションを図ることができる環境が整ったと認識しています。

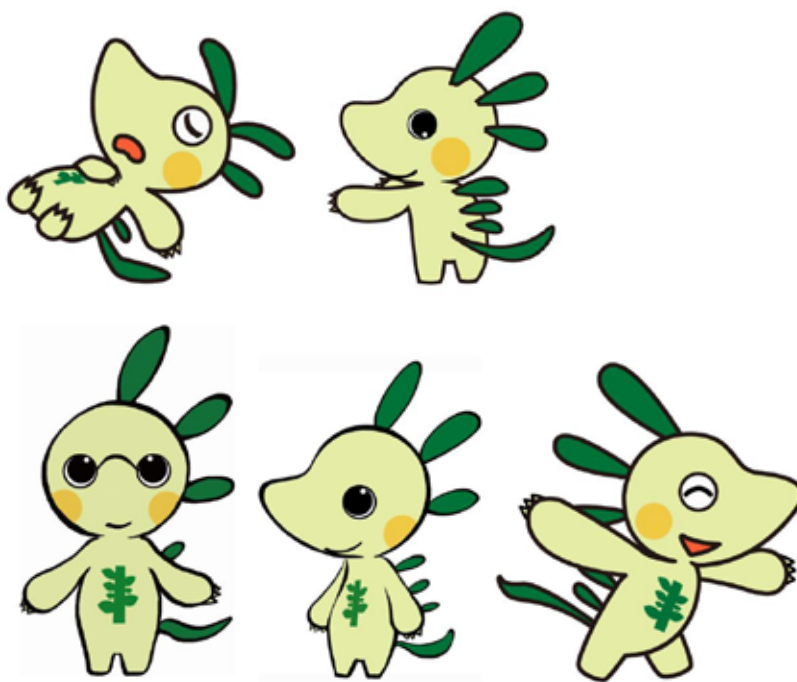
今後は、ホームページを考えることを基盤にして、WEBサイトの活用、SEO対策、集客対策に取り組み、スタッフの知恵と力を結集し、大学セミナーハウスの活性化を図ります。

大学セミナーハウスのイメージキャラクター「ななは丸」デビュー

大学セミナーハウスのシンボルマークである「七枚の葉」がついた樹の精をイメージした「ななは丸」(下図参照)が、新ホームページでデビューしました。

「ななは丸」は、大学セミナーハウスと東京造形大学との社会連携事業で誕生したキャラクターです。「施設・サービス」のページに登場しています。

▼スマートフォンのトップページ



2015年度開催セミナーの報告と予定

セミナー名・テーマ	開催日	講師・企画（運営）委員	参加者（定員）
<大学生を対象としたセミナー>			
第4回 EU セミナー EUの新たな挑戦 —危機をチャンスに変えて—	9/18（金）～9/20（日）	Jonathan HATWELL（駐日欧州連合代表部 副代表・公使）、渡邊啓貴（東京外国語大学大学院教授）**、田中素香（中央大学経済研究所客員研究員）**、太田瑞希子（亜細亜大学専任講師）、蓮見雄（立正大学教授）**、中西優美子（一橋大学大学院教授）**、福田耕治（早稲田大学政治経済学術院教授）**、押村高（青山学院大学教授）**、小久保康之（東洋英和女学院大学教授）**	103名 (70名)
<大学教職員を対象としたセミナー>			
第32回大学職員セミナー 大学職員の可能性 —大学改革を牽引する職員を目指して—	11/27（金）～11/28（土）	高野泰彦（慶應義塾大学入学センター部長）、後藤健夫（教育ジャーナリスト）、近藤清之（法政大学学務部長・入学センター長）*、青木加奈子（高崎経済大学研究グループ 研究支援チーム）*、中山真一（明治大学経営企画部広報課長）*、山本真一（桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科教授）*	37名 (40名)
第5回新任教員研修セミナー	8/29（土）～8/31（月）	村山光子（明星学苑法人本部企画部課長）、有賀清一（桜美林大学ビジネスマネジメント学群講師）、鎌田 学（一般社団法人まなび創造アカデミー代表理事）、菊地滋夫（明星大学教授）**、荒木晶子（桜美林大学教授）**、江夏由樹（一橋大学特任教授）**、北原和夫（東京理科大学教授）**、史 傑（電気通信大学教授）**	27名 (40名)
<教員免許状更新講習>			
第12回教員免許状更新講習	8/3（月）～8/6（木）	安田忠郎（教員免許更新センター長）**、葛澤元晴（早稲田大学大学院教職研究科客員教授）、佐々木掌子（立教女学院短期大学専任講師）、原田淳（立教大学兼任講師）、吉田真史（東京都市大学知識工学部教授）	374名
第13回教員免許状更新講習	12/24（木）～12/27（日）	安田忠郎（教員免許更新センター長）**、葛澤元晴（早稲田大学大学院教職研究科客員教授）、佐々木掌子（立教女学院短期大学専任講師）、荒木晶子（桜美林大学リベラルアーツ学群教授）、山内芳文（筑波大学名誉教授）、吉田真史（東京都市大学知識工学部教授）、松岡信之（国際基督教大学名誉教授）	350名
第14回教員免許状更新講習	1/20（水）～1/23（土）	安田忠郎（教員免許更新センター長）**、葛澤元晴（早稲田大学大学院教職研究科客員教授）、佐々木掌子（立教女学院短期大学専任講師）、山脇由貴子（心理カウンセラー）、谷川健司（早稲田大学政治経済学術院客員教授）、田中三彦（科学ジャーナリスト）、松岡信之（国際基督教大学名誉教授）	226名
留学生論文コンクール2015 私が考える地球的問題	応募締切 10/15日（木） 入選発表 11/13日（金）	審査委員 鈴木康司（大学セミナーハウス館長）、花澤聖子（神田外語大学教授）、松田康博（東京大学教授）、孫国鳳（大学セミナーハウス職員）	応募作品 38名（入選） 金賞1名 銀賞2名 銅賞3名

*印は企画（運営）委員、**印は企画（運営）委員を兼ねた講師

SPA 通信

■学部横断型ゼミ合宿で SPA 体験

中央大学の学部横断型の新しい教育システムである FLP (Faculty-Linkage Program) のスポーツ・健康科学プログラムの合宿で利用された学生（男子12名、女子22名）がSPAプログラムを体験した。最終日5月31日の9時から10時までの1時間であったが、2グループに分かれてニトロ・クロッシングとジャイアント・シーソーをそれぞれ体験し、問題解決能力とはどういうものかを考えるきっかけを作ることができた。



▲1本のロープで全員が渡り切るには、自分はどう関わればよいか。

■小中学校の新任教員研修に活用

8月18日から20日までの2泊3日で開催された狛江市教育委員会による新任教員（14名）のための研修会は、「体験活動をとおして初任者同士が協働し、学び合う意識を高める」ことを目的の一つとして開催された。研修の最終日、3時間に亘ってSPAプログラムを活用し、グループでアドベン

チャーに挑戦し、メンバーと一緒に課題解決を図り、一人ひとりが課題に対し主体的に関わることを体験をした。

■スタッフも SPA プログラムを体験

大学セミナーハウスでは、外部参加者とともに、法人スタッフもSPAを理解するための体験会を11月、2回に亘り開催した。アイスブレイクからインシアティブまでの3時間に亘るプログラムを体験した結果、参加者からは「参加すると見方も変わるので体験会の機会を増やすと良い」「初めて参加したが予想外に楽しかった」「短時間でチームになれたことがすごかった」「他のアクティビティやエレメントももっと体験したい」などの感想が寄せられた。



▲カードを選びながらの「ふりかえり」。学びを深め、日常の行動に移していく大切なプロセス。

■第5回新任教員研修セミナー

2015年8月29日～8月31日

【SPA プログラム】

「教える教育」から「支援する教育」へ

一般社団法人まなび創造アカデミー代表理事（SPA ファシリテータ） 鎌田 学

【講演】

学術の創造、継承そして公共性を担う大学 ——大学の多様化とアイデンティティ——

東京理科大学科学教育研究科教授 北原和夫

【私の授業】

1. 学生参加型授業の実践

明星大学人文学部教授 菊地滋夫

2. 大人数教室での効果的な授業運営方法

桜美林大学リベラルアーツ学群教授 荒木晶子

【グループ討論】

問題意識の共有と授業改善

電気通信大学情報理工学部教授 史 傑

【シンポジウム：現代大学教育論】

1. 学生の参加を引き出す学習環境構築の取り組み

桜美林大学ビジネスマネジメント学群講師 有賀清一

2. 学習支援に果たす図書館の役割

一橋大学特任教授・前附属図書館長 江夏由樹

3. 困難を抱える学生の理解のために——いま、私たちにできること——

明星学苑法人本部企画部課長 村山光子



▲SPA プログラム：新しい知の創造
東京工芸大学各1)



多様な価値観、目的、能力等をもった学生に大学教育を受ける機会が拡大した今日、学生の意欲を高め、能動的な学びを通して自ら課題を発見して解決する力を培うことは、大学教員に課せられた最も重要なテーマ。今年で5年目となった本セミナーでは、国公私立大学の枠を越え、多様な専門分野の教員が合宿形式の相互研修によって、新たな時代にふさわしい大学教育のあり方・教育方法を模索した。

これまでのグループディスカッションを中心に進行するプログラムに加えて、大学セミナーハウスが推進しているSPA（セ

ミナーハウスプロジェクトアドベンチャー）プログラムをセミナーの冒頭に置き、知識を活用し、創造できる学生を育成するための一つの体験型の教育手法を教員自身に体験してもらった。「座学とは違った形で新たな発想につながる貴重な経験になった」「グループでの学びの機会として体を動かしながら学ぶ点でとても有意義であった」などの感想が寄せられた。

■第4回 EU セミナー

EUの新たな挑戦——危機をチャンスに変えて——

2015年9月18日～20日



▲駐日 EU 副代表・公使ジョナサン・ハットウェル氏

【特別講演】

世界の中のEUと日EU関係の重要性

駐日欧州連合代表部副代表・公使 ジョナサン・ハットウェル

【分科会】

1. 欧州中央銀行の新たな役割

中央大学客員研究員 田中素香

亜細亜大学国際関係学部講師 太田瑞希子

2. EU エネルギー同盟と世界エネルギー市場の再編

立正大学経済学部教授 蓮見 雄

3. EU とドイツの理想追求—基本権保障を中心に—

一橋大学大学院法学研究科教授 中西優美子

4. EU の民主的ガバナンスと人の自由移動、移民・難民政策

早稲田大学政治経済学術院教授 福田耕治

5. EU 市民アイデンティティの行方

青山学院大学国際政治経済学部教授 押村 高

6. 世界の中のEU

東洋英和女学院大学国際社会学部教授 小久保康之

<企画委員長>東京外国語大学国際関係研究所所長・教授 渡邊啓貴

【企画委員】 全員が企画委員を兼ねる。

【参加状況】 14校 103名（亜細亜大学 21、立正大学 17、青山学院大学・東京外国語大学・東洋英和女学院各 14、早稲田大学 11、一橋大学 4、慶應義塾大学 2、群馬県立女子・大妻女子大学・中央大学・東京大学・防衛大学校・立教大学各 1）



ギリシャの財政危機やウクライナ情勢は予断を許さない。

しかしユーロ経済圏は危機を脱し、銀行同盟に向けた道を歩み始め、エネルギー同盟は形を整えつつある。様々な国際的不安定情勢をめぐって、対話枠組みをともなったEU 共通防衛政策の多面的な取り組みも進められている。もともと欧州統合はつねにある種の危機ばねを契機として制度設計を進め、前進してきた。その意味ではEU はひとりの欧州統合悲観論から脱して、今さらなる新しい段階に向かっている。今回のセミナーでは、駐日欧州連合代表部副代表・公使のジョン・ハットウェル氏を特別講演にお招きし、EU の現状と未来をめぐって議論した。

■第32回大学職員セミナー

大学職員の可能性—大学改革を牽引する職員を目指して—
2015年11月27日～11月28日

【基調講演】

一体的改革で浮き上がる問題点と対立構造
教育ジャーナリスト 後藤健夫

【講演】

入学者選抜の理念と施策—慶應義塾の四半世紀—
慶應義塾大学入学センター部長 高野泰彦

【企画委員】

近藤清之（法政大学学務部長・入学センター長）
山本眞一（桜美林大学大学院・大学アドミニストレーション研究科教授）
青木加奈子（高崎経済大学研究グループ研究支援チーム）
中山眞一（明治大学経営企画部広報課長）

【参加状況】25大学37名（相模女子大学5、駿河台大学3、関西国際大学・筑紫女学園大学・日本赤十字秋田看護大学・広島大学・宮城大学・安田女子大学各2、工学院大学・白梅学園大学・東洋大学・防衛大学校・明治大学・大分県立看護科学大学・関西福祉科学大学・志学館大学・静岡産業大学・

静岡理工科大学・島根県立大学・大正大学・大同大学・ノートルダム清心女子大学・羽衣国際大学・福岡女学院大学・横浜薬科大学各1）



「大学改革」に対する要請は、近年さらに加速され、かつ具体的になっている。大学職員はもはや事務を処理するだけの「事務員」ではなく、教員そして学生とともに「大学改革」の当事者として自ら考え、周囲を巻き込みながら行動することが求められている。今回は、現在具体的な検討が進められている高大接続のあり方と入学者選抜に焦点を当てながら、大学改革を牽引するメンバーとして進行中の改革のねらいや課題をグループで議論しながら協力して具体的な提案をするというバーチャル大学改革を行った。

参加者からは「意見を出すことのできない自分がかゆかった」「様々な質疑応答が繰り返され、質問の仕方も勉強になった。発表の機会も得られ、自分自身の今後の目標も見えてきた」「(みんなで)考えて、知恵を集めて発表する。そういう機会が日常の中にも増やしていきたい」との感想をいただいた。

▼大学で改革を索引する大学職員として何をしたいか



平成27年度利用状況

平成27年度上期の宿泊利用者数は18,140人で、前年度が20,343人でしたので2,203人の減少でした。

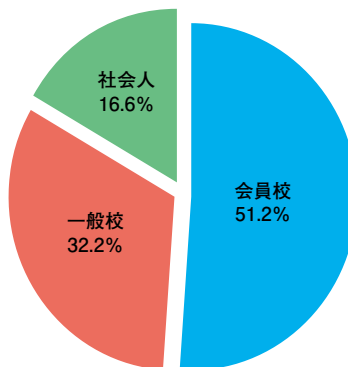
利用内訳は会員校の利用が前年と比較して2,284人の減少、一般校が684人の増加、社会人が603人の減少となりました。その結果、前年比89.2%となりました。

下期につきましては会員校の減少に歯止めをかけるための方策が必要となります。

◆区別利用状況

宿泊延人数全体の占める区別の構成比は下記の通りです。

利用者区分構成比
■会員校 ■一般校 ■社会人



宿泊延人数

区分	平成27年度（上期）		平成26年度（上期）	
	宿泊延人数	構成比	宿泊延人数	構成比
会員校	9,286	51.2%	11,570	56.9%
一般校	5,838	32.2%	5,154	25.3%
社会人	3,016	16.6%	3,619	17.8%
合計	18,140	100%	20,343	100%

○ 会費をありがとうございました

(2015年6月～2015年11月) (敬称略)

- 6月 犬塚 博、朝野洋一、瀬戸岡 紘、安宅光雄、本江哲郎、鳥海保子、小倉充夫、中村幸安
 7月 入江和生、黒田道雄、慶谷伸代、上野芳康、松島 恵、高橋公雄、古本邦枝、橋本 智、仙田 哲、中山光雄、太幡祐己、柴田 誠、伊藤意智郎、瀬田裕司
 8月 得田保雄、海老澤克之、澤島侑子、白井克彦、小池 滋、米村貞蔵、村田光二、栗原 裕、金谷 憲、荻原澤太郎、新井勝紘、宮野三郎、荒川由美子、藤田淑子、八幡義博、松尾秀雄、國岡昭夫
 9月 山田耕司、福島正久、朽津耕三、岩崎征人、井手久登、北原文雄、林 勲、鈴木俊和、稲田 拓、戸張よし子、東壽太郎、白井克彦、滝口 亨
 10月 末松安晴、木畑洋一、桐原五十鈴、小田中敏男 (奥様)、小田 滋、吉原健吾、宇野重昭、米満 澄
 11月 川鍋正敏、熊川 忠、山岸 健、澤島侑子、近藤 保、城 謙輔

会員からのメッセージ

- セミナーに初参加して50年が経ちました。今でも当時を感慨深く思い出します。これからも一層の発展を願っています。 犬塚 博
- 40周年記念の募金活動に中嶋理事長と共に奔走したことを思い出しています。 本江 哲郎
- 千人会費お送りします。大学セミナーハウスのますますの発展をお祈りします。 黒田 道雄
- 御発展を楽しみにいたしております。 慶谷 伸代
- おかげさまで傘春を迎えることができました。開館50周年大学セミナーハウスの益々のご発展をお祈りいたします。 松島 恵
- 大学セミナーハウスの益々の発展を祈ります！ 得田 保雄
- 開館50周年を迎えられご同慶の至りです。 海老澤 克之
- 今年は開館50周年の由、おめでとうございます。感無量です。 澤島 侑子
- 50周年、とてもうれしく存じます。一層の発展を祈念しております。 栗原 裕
- 今年三月、大学教員を定年退職しました。1968年に学生としてゼミ合宿でセミナーハウスを使ってから47年になります。現在は八王子市史の近現代編にかかわっています。 新井 勝紘
- 大学セミナーハウスの益々の御発展を願って寄付を致します。 宮野 三郎
- 近くの絹ヶ丘に住んでいましたので、散歩でセミナーハウスに寄らせてもらい、千人会に入っておりましたが、今回で退会させていただきます。会の隆盛を祈念致します。 八幡 義博
- 設備、施設の更新など、御努力に毎回、感謝いたしております。 松尾 秀雄
- 今年1月で95歳となりました。脚が悪く、少々遠い郵便局へ行きにくく会費支払いが遅延し申し訳ありません。大学セミナーハウスの活躍を期待しております。 北原 文雄
- 小田中敏男平成27年9月死去いたしました。生前のご厚情深く感謝申し上げます。 小田中 敏男妻
- 誕生日カードありがとうございました。開館50周年とか。その直前にまだ土の中に建てられつつある館のことを思い出しました。助教授2年目の時代です。 宇野 重昭
- 誕生日のお祝いの言葉をいただき、励ましを与えられる思いがいたします。開館50周年、嬉しく思います。さらなる発展を願っています。 熊川 忠
- 大学セミナーハウスの発展、うれしいことです。設立準備の会の記録をとったことがあり、なつかしく思います。 山岸 健
- 入院していたため、送金がおくれました。退院して何とか自宅で暮らせるようになりました。お詫びに少し増額して贈ります。 澤島 侑子
- 毎日元気に過ごしています。 近藤 保



▲50周年を迎えた今、法人設立発起人会の懐かしい一枚

セミナーハウスの木々も紅葉を終え、冬支度をしています。来年は開館50周年記念の集いを開催し、記念誌を発行する予定です。皆様の暖かいご支援のもと、新しい春に向けて業務に励んでまいります。(職員一同)

平成27年度運営幹事会報告

平成27年11月19日(木)、大学セミナーハウス運営幹事会が開催され、青山学院大学、桜美林大学、国際基督教大学、創価大学、中央大学、明星大学、立教大学、早稲田大学の幹事の皆様8名にご出席いただきました。

開会にあたって、大学セミナーハウス佐藤理事長、鈴木館長よりご挨拶をさせていただき、引き続き新設置のパウダールーム(写真①・②)などのキャンパス見学、SPA(セミナーハウス・プロジェクト・アドベンチャーの略)の体験をしていただきました。短い時間でしたが、実際に体験することでSPAへの理解を深めていただけたものと思っております。

続いて交友館において、法人から以下の事項について詳しく報告・説明をさせていただきました。

1. 平成28年度事業計画骨子(案)について
2. 食堂棟新築工事建設スケジュール
3. ホームページのリニューアルについて
4. 平成27年度主催セミナーの実施・準備状況について
5. 宿泊利用状況について

これらの報告・説明を受けて、幹事の皆様からセミナーハウスへの貴重なご意見をいただきました。

以下は意見交換の抜粋です。

<せみドリルとSPI対策のeラーニングプログラムについて>

セ:基礎学力養成eラーニングプログラムである「せみドリル」は今年度から提供している。SPI対策のeラーニングプログラムについては来年度中の実施を検討中である。御意見をいただきました。

幹:中学、高校での学習のつまずきを補完することを考えると、会員校の附属校、系属校、近隣の学校でせみドリルを利用できるのではないかと。

セ:SPIへのつながりという視点ではないが、初年度教育の意味で、各大学への貢献という可能性がある。検討したい。

幹:大学セミナーハウスは、東京都内でありながら、自然環境が豊かである地理的優位性を活用すべきである。

セ:施設を含めて環境を整備し、地理的優位性を活かすべく今後も継続して改善していく。

幹:eラーニングは大学として扱うのは難しいので、学生個人で申し込める方がよい。

幹:学生へは口コミ情報が有効である。実際にSPI対策の役に立ったという体験者のコメントを記事にして紹介するのが良いと思う。

<長期館Bの女性用バスルームとパウダールームについて>

幹:浴室と更衣室は一度に何人も入るには狭いと感じた。とてもきれいなパウダールームだが、外からはわからないので外観もきれいにみせる工夫があるとよい。



▲新設置された長期館Bのパウダールーム

<施設利用者の拡大について>

幹:大学生の利用時期は春期、夏期休暇中に集中するので、その他の時期に企業研修に利用してもらうなどで稼働率が上がるのではないかと。このような自然豊かな研修場所は企業の人事担当のニーズに応えられるものだと思う。

セ:賛助会員加入へのアプローチもふくめ、企業には積極的に利用促進をアピールしていきたい。

幹:ドローンを飛ばすことができる施設ということもアピールできるのではないかと。

セ:最近ドローンに関してのセミナーが開かれた実績もあり、今後の可能性を検討していく。

幹:イングリッシュキャンプのような、この施設内ではキャンプ期間中英語しか使わないで合宿するという企画もできるのではないかと。

セ:イングリッシュキャンプのような企画は企業の社員研修としての可能性もあると考えられる。

幹:比較的宿泊利用が少ない時期にイングリッシュキャンプのような社員研修は有効だと考える。日本に来る外国人が多くなり、ビジネスで英語を使うことは更に増えている。またそのような研修にSPAのプログラムを提供して組み入れることも可能ではないかと。

幹:留学生が日本で就職する環境が整いつつある。日系企業での就職試験に向けて、留学生、帰国子女のSPI対策をセミナーハウスで提供できるとよい。

セ:留学生等を対象としたSPI対策講座の提供という視点は大変参考になる。

<その他メールによるご意見>

幹:SPAの様子も理解することができ、大学内に広報しやすくなった。

幹:例年に比べて意見も多く出ていたように感じた。配布の資料をもとに、関係部課室には声をかけるようにしたい。

館長室から

今年は久しぶりで残暑がほとんどなく、秋がたっぷりあって四季の良さを味わっています。大学セミナーハウスも春と秋は本当に自然が美しく、東京にまだこんなに自然に恵まれたところがあったのかと訪れる人が喜んでくれています。

50周年記念の事業もいよいよ佳境に入る時期となり、関係者一同一生懸命に励んでおります。来年はこれまで長い間このセミナーハウスを支えてくださった方々、特に創設当時からお世話になっております千人会の皆様を始め、多くの方々にできるだけ当ハウスを訪れていただけるように、いろいろな企画をと考えているところです。

創立時の理念に賛同して加盟して下さった多くの大学も、昨今の大学冬の時代が理由でしょうか、費用対効果だけをとりあげて退会して行く学校もあれば、世知辛い世の中ではあるが、教師と学生が、大学の垣根を取り払い、この地でともに語り合って夜を過ごす意義を認めて変わらぬご協力をくださる学校もあります。

もちろん、当ハウスとしても厳しい世相の中で昔のように杓子定規な規律を来館者に求めることなく、どうすれば皆さんに満足して帰っていただけるかを探りつつ頑張っています。

さて、今回は当ハウスホームページの刷新についてご報告しましょう。これまでホームページは単に基本的情報さえ社会の皆さんに伝わればよいという感じの味もそっけないものでした。いかにも世間から取り残されたセミナーハウスと言わんばかりの代物だとある人に言われた程ですが、この度、当ハウスに理解を示して下さる専門業者の協力を得て生まれ変わることができました。11月上旬から公開されています。見るからに楽しく、中身を知ってみたいと思うようなつくり、気の利いた情報、簡単に問い合わせのできる窓などなど、ぜひ皆さんにのぞいていただきたいホームページとなりました。

最近では50年前前に建てられた当ハウスをかえって珍しがって、流行の先端をゆくようなメディアから撮影の依頼が来たりしています。このように、ユニークな建物を考えてくださった早稲田大学の吉阪隆正氏に感謝しつつ、どうすれば乏しい予算を割いて古くなった、しかし貴重なこれらの建物を維持し再生して行くか、我々の課題となっています。

館長 鈴木 康司